

三崎良章著

『五胡十六国——中国史上の民族大移動——』

〔新訂版〕

(東方選書 43)

東方書店 二〇二二・一〇刊
四六 二四〇頁 二〇〇〇円

本書は二〇〇二年に日本初の五胡十六国時代に関する専著として刊行され、高く評価された同名書(以下、旧版)に、修正と加筆を行った新訂版である。

本書の構成は以下の通りである。序章…民族の時代、第一章…後漢〜西晋時代の少数民族、第二章…「五胡」とは何か、「十六国」とは何か、第三章…「十六国」の興亡、第四章…「十六国」の国際関係と仏教と国家意識、第五章…人の移動、第六章…「五胡」と漢族の融合、終章…南北朝から隋唐帝国へ、おわりに、新訂版あとがき、図版出典一覧、主要参考文献。

新訂版あとがきによれば、本書は旧版の文章を全面的に修正し、研究の進展による内容の改訂を施した上で、以下、①系図に在位年を追加、②写真の一部差し替えと追加、③旧版第五章第一節〜第三節を第五章「人の移動」に一括、④第六章「五胡」と漢族の融合」を新設し、第二節「壁画墓・画像磚墓に見られる『五胡』と漢族」を増補、の四点が変更されている。

旧版の詳しい内容とその意義については既に、市来弘志氏による新刊紹介『史学雑誌』第一一編第七号と、川本芳昭氏による書

評『東方』二五九号)があるので、ここでは本書において新たに加筆された部分を中心に紹介したい。

そもそも五胡十六国時代は、中国史の他の時代と比べて史料が少ない上に、数多くの民族が入り乱れ小国が乱立した動乱の時代であり、時代史の輪郭をつかむには難しい時代である。加えて、近年続々と発見されている墓誌などの出土文字史料も、他の時代の例と比べ少ない。このような状況下において、近年の五胡十六国研究は、画像や出土遺物等の非文字資料を用いた研究が増加している。著者もまた、旧版出版以降、二〜五世紀の墳墓から発見された画像を用いた研究に長らく取り組んでおり、本書に新たに加筆された第六章第二節は、それらの成果を簡潔に示したものである。ここでは、墳墓内の壁画の写真や模写が数多く提示され、そこに描かれた当時の人々の服装や髪型等から「五胡」と漢族が雑居していた当時の社会状況が、より鮮明に読者に示されている。また、本書の巻末に挙げられた主要参考文献は、旧版に挙げられたものに、二〇〇一年以降に日本・中国で出版された関連する単行本を追加したもので、最新の五胡十六国研究の成果が示されている点でも極めて有用である。

先に述べたように、旧版は日本で初めての五胡十六国時代に関する専著であり、複雑なこの時代の輪郭を簡潔に示した概説書と評価されてきた。今回の新訂は、旧版が主に依拠した編纂史料のみならず、近年急速に進む調査発掘と、それにより出土した非文字資料を用いた研究成果をふんだんに盛り込んだものである。これにより本書は五胡十六国を学ぶ上でまず参照すべき文献とし

ての価値・有用性を一層高めたと言えよう。

(峰雪幸人)